

2024年10月 T1クラスBチーム 実技報告

山名	岩湧山	
ルート	「滝畑ダム」登山口～扇山～岩湧山～根古峰～鉄塔道経由～「紀見峠」	
参加者	スタッフ3名、生徒9名(計12名)、うちBチームスタッフ1名、生徒5名	
日程	2024年10月19日(土)	
天気	晴のち曇りのち小雨	
行程	<p>9:00 南海バス「滝畑ダム」停留所着</p> <p>滝畑湖駐車場 トイレ、行程説明、気象確認、ストレッチ</p> <p>9:20 登山開始</p> <p>9:40 衣服調整・水分補給 5分</p> <p>9:50 分岐にて地図読み講習(下記参照)15分</p> <p>扇山分岐が見つけれず、通り過ぎる</p> <p>10:40 水分補給</p> <p>10:55 鉄塔75 地図読み</p> <p>11:15 岩城山山頂前のススキの群生と葉場山火口(ハバヤマボクチ)</p> <p>11:40 岩湧山登頂 食事休憩20分</p> <p>12:10 東峰</p> <p>12:35 五ツ辻</p> <p>13:10 根古峰 三角点確認</p> <p>13:50 鉄塔路分岐 関電道を通り下山(若干ザレ場あり)</p> <p>14:35 南海高野線「紀見峠」駅着</p> <p>～16:20 登山終了後、ストレッチ、冬山装備についての講習</p>	
	コースタイム5時間20分 距離10km 上り777m 下り838m	
学び1	<p>※現地での地図読み(現在地がわかっている場合)</p> <p>①登山地図の磁北線とベースプレートコンパスの磁針を北に合わせる。</p> <p>②コンパスの長辺を現在地から目的地に向けて置く。</p> <p>③コンパスの北マーク(磁針ではない)が地図の磁北線と平行になるようにリングを回す。</p> <p>④地図は離して、コンパスを体の正面に正確に持ち、磁針と北マークが重なるよう体を回してのち、歩き始める。</p>	

<p>学び2</p>	<p>※冬山の装備について（現物を見せていただく）</p> <p>帽子・ヘルメット…バラクラバは必須</p> <p>グローブ…ベース、ミドル、アウターの3枚重ね又は機能により2枚重ね（5本指、3本指、ミトンタイプがあり、作業性と保温性が異なる。手袋は失うことはできないのでリーシュコードも一考。）雪の侵入を防ぐため長さを考慮する。</p> <p>ウェア…レイヤリングを基本にする。雨具は冬山では防寒とはならない。</p> <p>スパッツ…雪の侵入を防ぐのみならず保温効果もあり、アイゼンの爪からパンツを保護する効果もあり。</p> <p>トレッキングポール…スノーバスケットが必要</p> <p>靴下…素材選びの重要性 予備の靴下必須</p> <p>冬山用登山靴…アイゼンの使用を考慮して、ソールが堅く、つま先とかかるとにコバが付いているもの(ワンタッチもしくはセミワンタッチアイゼンを装着するため。)が好ましい。</p> <p>アイゼン…冬山には12本爪。必ず登山靴持参で購入すること。</p>
<p>雑感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・扇山の分岐については注意していたつもりであったが、地図で分岐に達する時刻の予測をたて、こまめに現在地をチェックする必要があったと反省。 ・実技を重ねてきたが、今まで本格的な雨に見舞われてことがなかった。今回は午後から断続的な小雨で28°C前後と気温・湿度ともに高かったので、雨具を着たり脱いだりした。 ・スタッフの方がわざわざ冬山登山の装備を持ってきてくださったことには感謝してもしきれない。（実物をみせていただき、実感がわく。） ・どこまでの登山を目指すかによって、必要な装備が異なることを実感した。季節、難易度、高度、小屋泊まりかテント泊か（食料）、沢登りやクライミングの有無等、によりそろえなければならない装備が変わってくるので、進級も含めて各自が決断しなければならない時期だと思った。
<p>次回実技</p>	<p>11月16日（土）妙見山 アイゼンとストックを必ず持参のこと</p>

文責：中村